

基本構想(答申)

平成12年5月

長岡京市総合計画審議会

目 次

まちづくりの基本姿勢	1
第1章 まちづくりの将来像	2
1 将来都市像	2
2 将来人口	3
3 土地利用構想	4
第2章 分野別の基本的な方向	6
1 福祉・保健・医療	
～ 誰もが安心して暮らせるまちづくり ～	6
2 生活環境	
～ 自然と共生する循環型のまちづくり ～	6
3 教育・人権・文化	
～ 豊かなふれあいを育てるまちづくり ～	7
4 都市基盤	
～ 歩きたくなるまちづくり ～	7
5 産業	
～ 活力とにぎわいを生み出すまちづくり ～	8
第3章 まちづくりの推進に向けて	9
1 市民と行政のパートナーシップの確立	9
2 市民に開かれた合理的な行財政の運営	9
3 近隣市町とのネットワークの強化	9

まちづくりの基本姿勢

まちづくりの主役は、市民です。

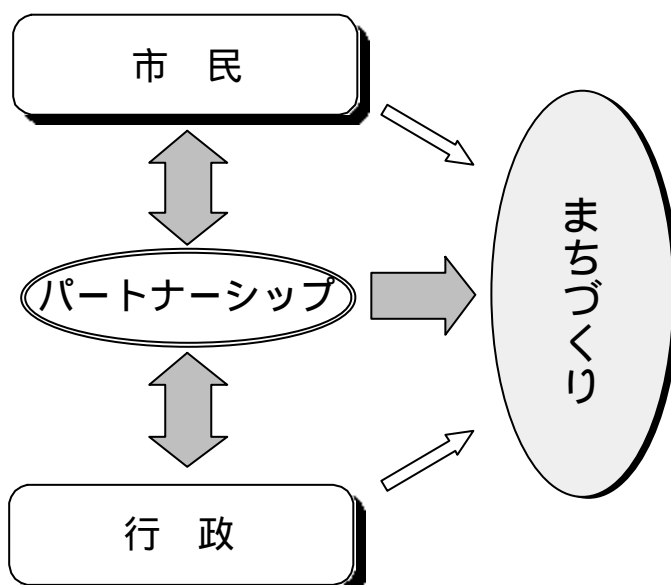
まちは、市民（住民や各種団体、事業者などの様々な立場の人々）の主体的な「参加」と「協働」でつくられていくものです。

今日、地方分権が本格的にスタートを切り、まちづくりの様々な場面で、地方自治体の役割が高まり、公共政策を担う機関として、責任と創意ある施策・事業の推進が求められるようになっています。

このような中で、市民が本当に納得できるまちづくりを進めるためには、まちづくりに関する意志決定の過程に市民が参画することがますます重要になります。

そのために、市民は、自治の能力を高めていくこと、まちづくりの方向や公共政策に対して、まちにとって何がよいかを主体的に判断し選択できる力を高めていくことが大切になるでしょう。行政は、行政が担うべき公共サービスを的確に提供していきます。また、十分な情報提供はもとより市民がまちづくりに参加しやすい仕組みをつくり、市民の創造的なまちづくりを支援する総合的なコーディネーターとしての役割を發揮していきます。

市民とそれを支える行政という役割を果たしつつ、市民と行政のパートナーシップをよりどころとして、長岡京市を舞台とした新世紀のまちづくりを進めていきます。



第1章 まちづくりの将来像

1 将来都市像

長岡京市の魅力は、西山の緑や竹林、市街地内に点在する田畑などの豊かな自然が生み出すまちのゆとり、京都と大阪の中間に位置する利便性の高い立地条件、先人達が培ってきた歴史・文化、そして、何よりも豊富で多彩な人材がいることだと言えます。こうしたことが、長岡京市の暮らしやすさにつながっており、住民の定住意向の高さにも反映されていると言えます。

今、長岡京市は、人口増加も落ち着き、成熟したまちへと向かいつつあります。新世紀の長岡京市を展望するとき、子どもも、若者も、お年寄りも、障害をもつ人も、すべての人がいのちと人権を尊重され、主体的に地域や社会に参加し、互いの価値観を認めあい、互いに支えあいながら、自らの成長を育み、人生の喜びや楽しみを見いだすことができるまちを目指すことが大切になります。

そのために、先に述べたようなまちの魅力や、ゆとりある暮らしやすさを高めていくこと、多彩な人材がもつエネルギーを発揮できる場や仕組みづくりが必要だと言えます。そして、安全性や利便性を土台として、生活のより高い質「楽しさ」「快さ」を享受でき、住んでよかったと言えるまちの実現を目指します。

このようなまちづくりの理念を踏まえて、長岡京市の新世紀の将来都市像を以下のように定めます。

将来都市像

『住みつづけたい みどりと歴史のまち 長岡京』

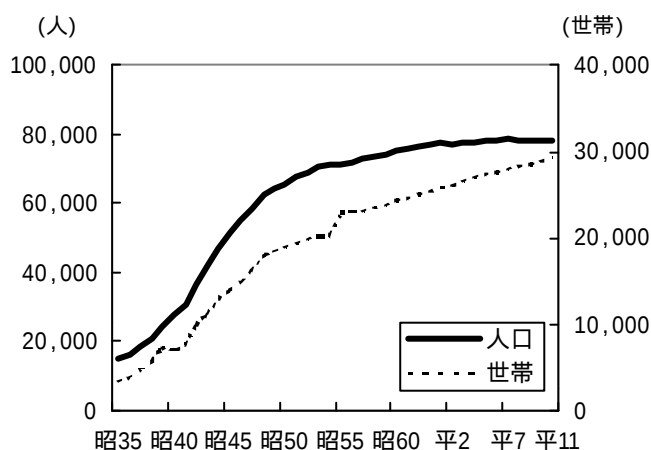
2 将来人口

本市では、昭和 40 年代に住宅地開発が急速に進み、人口は急増しましたが、そののち、人口増加は沈静化をみせ、この数年は、概ね 7 万 8 千人前後で推移しています。

急増期に転入した人口は、主に若い年齢層が中心でしたが、こうした世代が定着するにつれ、高齢化が進みつつあります。平成 11 年 10 月現在で長岡京市の高齢者比率（65 歳以上）は 13.1%と全国水準（16.7%）を下回っているものの、これからも高齢化は速度を増しながら進んでいくものと考えられます。

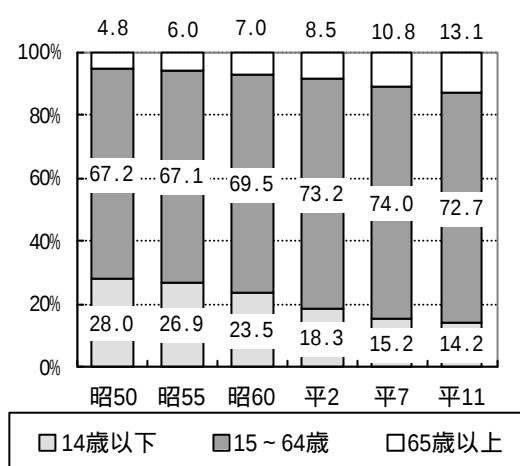
今後は、急激な高齢化にブレーキをかけ、各世代のバランスのとれた人口構成を保っていく必要があります。そのため、現有人口の定着化を進めるとともに、若年層を中心に新たなまちの担い手を確保できるよう、市民が子を生み育て、子どもからお年寄りまでが安心して住み続けられる、居住条件の整備・充実などを進める必要があります。これらを踏まえ、平成 27 年で 8 万 5 千人の市民がゆとりをもって暮らすことができるまちづくりを目指します。

人口及び世帯数の推移



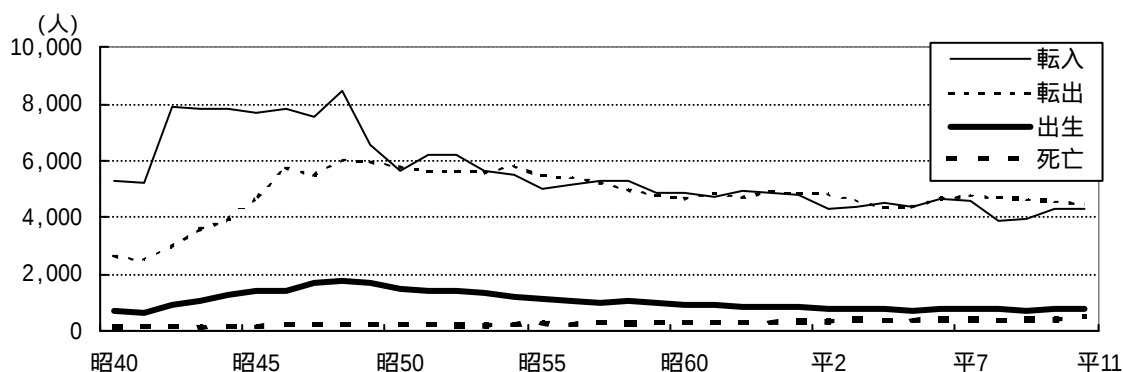
資料：国勢調査及び京都府推計人口
 注）各年 10 月 1 日現在の人口
 平成 8 年以降は京都府推計人口の数値

年齢別（3区分）人口の推移



資料：国勢調査及び長岡京市住民基本台帳
 注）各年 10 月 1 日現在の構成比
 平成 11 年のみ住民基本台帳の数値

人口動態の推移



資料：長岡京市住民基本台帳

3 土地利用構想

長岡京市の土地利用は、西山山ろくから東へなだらかに広がる斜面と平坦地という地理的な特性に従って、いくつかの特徴的な地域に分けることができ、また、それぞれが固有の課題をもっています。そうした特性に即して次の6つのゾーンを設定し、各地域の土地利用の課題と目標を明らかにします。

(1) 西山ゾーン

市域西部に広がる西山の山林は、市域面積の約4割を占め、特に山ろく部の竹林では本市の特徴的な産業であるたけのこ生産が営まれるなど、生活の上でも生産の上でも市民の重要な自然資源となっています。こうした西山の自然を乱開発から保全すると同時に、今ある自然を維持してするために、市民参加の里山管理など、緑にふれながら心の豊かさを高めていけるような緑の活用を図っていくことが課題となっています。ここでは、自然資源の保全と活用の調和ある土地利用を目標として施策を進めます。

(2) 山ろく住宅ゾーン

山ろく部に接する地域では、旧農村集落を取り囲むかたちで比較的大規模で良好な居住環境をもった住宅開発が行われています。今後、旧集落や周辺の自然環境との調和を進めるとともに、住環境を悪化させるミニ開発*の防止を図るなど、これまでの良好な居住環境を維持していくことが課題となっています。ここでは、緑あふれる良好な住宅形成を目標として施策を進めます。

(3) 都心ゾーン

市の中心部、阪急長岡天神駅とＪＲ長岡京駅を結ぶ地域は、本市の玄関口であり、商店街、大型スーパーなどの商業施設の集積、歴史的な雰囲気をもち市民の憩いの場ともなっている天神の森など、たくさんの人が集まる都心と呼ぶべき地域となっています。今後は、これらの都心機能を強化するため、駅周辺整備をはじめ、人にやさしい道路空間づくり等種々の基盤整備が課題となっています。ここでは、空間の有効な活用と快適な都心の形成を目標として施策を進めます。

(4) 住宅ゾーン

市の北部及び南部は、人口の急増とともに、農地や竹林の宅地化が急速に進んだ住宅地域です。この地域ではスプロール*的なミニ開発*も見られるため、道路等の都市基盤や居住環境の整備を計画的に図っていく必要があります。また、住宅地内に点在している農地は、身近な緑のオープンスペース*としての重要な役割もあり、今後はそのバランスのとれた保全と活用が課題となっています。ここでは、身近な自然環境と調和したきめ細かな居住環境の整備を目標として施策を進めます。

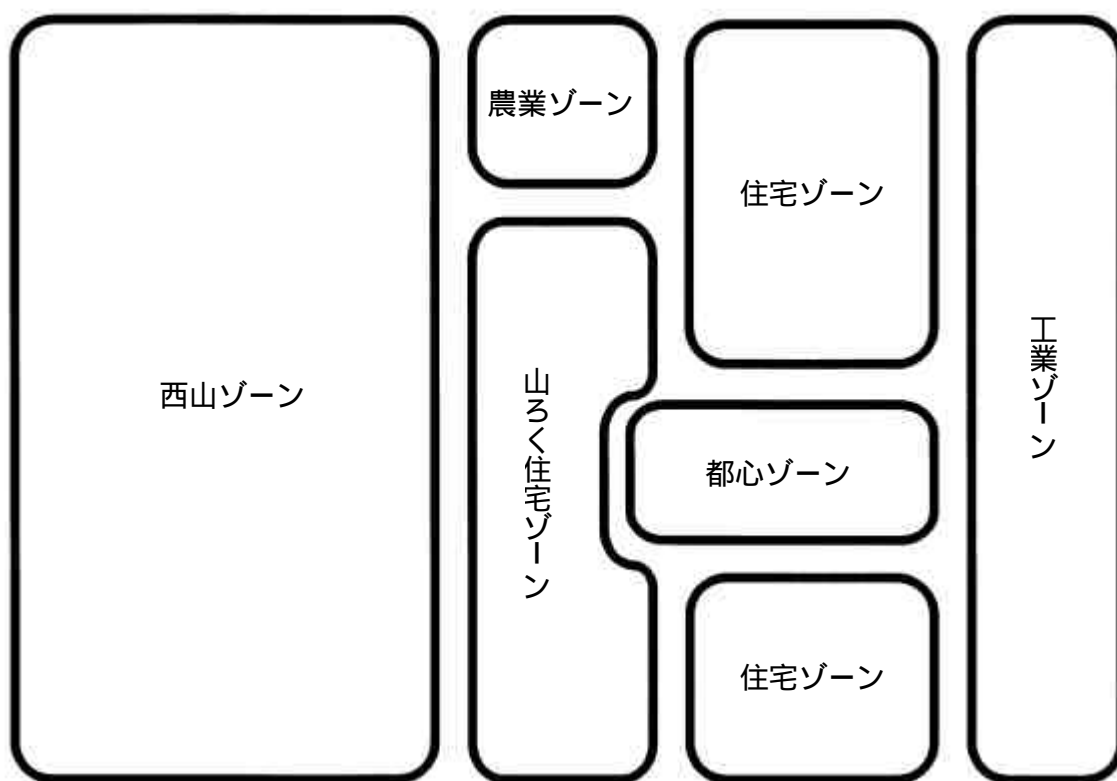
(5) 工業ゾーン

J R以東では、京都市南部及び向日市から連なる工業ベルト地帯の一部となっています。しかし、一方で開発の進んだ住宅地や、まとまりのある農地も隣接しており、住・工・農の間の調和ある機能分担及び生産環境の整備・改善が課題となっています。ここでは、工業生産基盤の整備と、多様な用途が調和した土地利用を目標として施策を進めます。

(6) 農業ゾーン

市の北部にある市街化調整区域の農地については、生産性の高い優良な農地としての保全整備が課題となっています。また、周辺の宅地化が進む中で、農地を身近な自然環境としてとらえ、市民が「農」にふれられるような農地のあり方も必要です。ここでは、農業生産基盤の整備を目標として施策を進めます。

土地利用構想図



第2章 分野別の基本的な方向

1 福祉・保健・医療

主要テーマ ～ 誰もが安心して暮らせるまちづくり ～

子どもも、お年寄りも、障害のある人も、すべての人が、世代をこえて助けあいながら、健康で自立した生活を送ることのできるいつまでも暮らしたい福祉のまちづくりを目指します。そして、誰もが自らの価値観に従いながら、地域や社会に参加できる環境づくりを進めるとともに、それぞれの多様性を認め合いながら、協力しあい、支えあうことのできる、まちづくりを進めます。

そのため、ノーマライゼーション*の考え方を広め、小地域のまとまりで、地域住民相互やボランティア*、福祉関連施設の重層的なネットワークづくりを進め、ボランティア*が活動しやすい環境づくりを進め、市民の参加を促進します。

また、子どもを安心して生み育てられる環境づくりに向けて、多様な子育て支援サービスの提供や相談活動の充実を進めます。

超高齢社会の到来を見据え、病気の予防に力を入れ、乳幼児からお年寄りまでがそれぞれに応じた健康づくりが進められるよう支援するとともに、介護が必要なお年寄りに対しては、介護保険制度を適切に運用しつつ、制度の対象とならない人も含め、十分な福祉サービスが受けられる体制づくりを進めます。

2 生活環境

主要テーマ ～ 自然と共生する循環型のまちづくり ～

私たちの社会・経済活動が引き起こす、自然破壊、大気や水質の汚染などの環境への影響をできる限り低く抑え、消費型のライフスタイル*を見直し、より自然の営みに近い、循環を大切にした社会、自然と共生するまちづくりを目指します。

そのため、これまでも先進的に進めてきたごみの減量や分別収集、リサイクル活動など、環境への影響を抑える取り組みを市民とともに積極的に進めていきます。あわせて、これらの市民の主体的な取り組みをリードする人材やグループの育成、活動支援を進めます。

また、本市の豊かな自然資源である、西山、竹林、農地などについて、市民の参加を得た保全、維持の仕組みをつくっていきます。市街地においても、公園の整備や緑化、市民が親しめる河川環境の整備を進め、歴史・文化資源の活用とあわせて、うるおいのある環境づくりを進めます。

3 教育・人権・文化

主要テーマ ～ 豊かなふれあいを育てるまちづくり ～

市民誰もが、様々な個性をもつ多くの人と交流を深め、お互いを尊重し高めあいながら、ふれあうことのできるまちづくりを目指します。

そのため、様々な人の多様な生涯学習やボランティア*活動に対する意欲の高まりに応えて、多彩な活動の場・機会・情報の提供や、市民同士が学びあう仕組みづくりを進めます。

そして、地域に開かれた学校づくりを進めるなど既存施設も活用しながら、市民活動の活性化や地域づくりを支援します。

また、男女差別や同和問題をはじめ、あらゆる差別をなくし、個々人が自らの個性と能力を十分に発揮することのできるよう、人権を大切にする意識を高めていきます。

さらに、教育に関わる社会的背景を見据えつつ、子ども達が、様々な体験を通じて社会性を育み、人生を豊かに歩む力を身につけられる環境づくりを目指すとともに、様々な文化・芸術活動を展開し、豊かな歴史を守り育て、新たな長岡京市の文化の創造に努めます。

4 都市基盤

主要テーマ ～ 歩きたくなるまちづくり ～

人を最優先に考えた交通体系を目指し、環境への影響に配慮した誰もが使いやすい公共交通の充実を進めます。また、まちの骨格となる幹線道路の整備により、渋滞のない円滑な自動車交通の実現と市街地内への自動車の流入抑制を図り、歩道の整備など安全快適なみちづくりなどを進め、お年寄りや障害のある人も安心して生活できる市街地環境の実現を目指します。

阪急長岡天神駅、ＪＲ長岡京駅を二つの核とした中心市街地は、駅周辺において再開発事業等の拠点づくりを進めるとともに、業務・サービス・商業機能と居住機能の適切な共存を図り、市民とともに歩きたくなるような魅力ある生活空間づくりを進めます。

また、市街地に点在する農地については、本市を特徴づける資源のひとつとしてとらえ、その保全と市街地内におけるオープンスペース*としての有効活用、あるいは適切な宅地化を誘導します。

さらに、地域における防災活動の活性化と防災上のオープンスペース*の確保に努め、災害に強いまちづくりを進めます。

5 産業

主要テーマ ～ 活力とにぎわいを生み出すまちづくり ～

農林業については、農地や西山の緑の保全を図る中で、農業者以外の市民も含めた多様な担い手を確保するため、人と人の有機的なネットワークづくりを進めるとともに、生産基盤の整備や特産物の生産を充実するなど、農林業の振興を図ります。

商業については、既存商店街と大型店の共存を図り、市街地の整備とあわせて魅力ある商業環境を創出し、人が集いにぎわいのあるまちづくりを目指します。

工業については、周辺環境との調和に配慮しつつ、その受け皿となる基盤の整備を進め、生産環境の維持・向上を図り、企業と市民が共存共栄できるまちづくりを進めます。また、新たな分野の産業について、育成・支援を検討します。

観光については、本市の歴史・文化資源を活かした散策路などのネットワークづくりを進め、観光客誘致に向けたPRを行い、観光イベントなどのソフト事業を中心とした観光事業を展開します。

第3章 まちづくりの推進に向けて

1 市民と行政のパートナーシップの確立

各分野の施策を的確に推進していくために、多様な方法で市民意向の把握を行うとともに、市民がまちづくりに参画できる仕組みづくりや双方向の多様で分かりやすい情報提供の充実を図ります。また、多様な市民活動ネットワークづくりの支援など、市民と行政のパートナーシップによるまちづくりを進めます。

2 市民に開かれた合理的な行財政の運営

地方分権の推進や市民ニーズの変化に的確に対応するため、行政職員の資質を磨き、政策形成能力を向上させるとともに、行政の組織機構の的確な見直しを進めます。また、情報化等による行政事務の効率化を図ります。さらに、積極的な情報公開のもと、市民への十分な説明責任を確保するとともに、的確な施策の選択や財源の重点配分を図る行政評価システムの導入を目指します。

3 近隣市町とのネットワークの強化

市民の日常生活圏の広域化や広域的に共通の課題に対応し、乙訓2市1町（長岡京市、向日市、大山崎町）をはじめ、京都市や京都府南部地域の市町の連携を強化し、広域事務の適切な連携と分担により合理的で多様な市民への行政サービスの提供に努めます。